

第22回 清川村子ども議会



**役** 場庁舎3階・議場で2月22日、第22回清川村子ども議会が開催されました。

今回の子ども議会は、村立小学校の6年生27人が子ども議員となり、6班に分かれて村政に対し鋭く質問や提案を投げかけました。

招集あいさつで岩澤村長は、「1月19日に、村長講話として、村づくりに対する私の思いをお話させていただきました。その時に皆さんが考える村づくりについて考えてほしいとお願ひしました。ぜひ、自信をもって質問してください。私も皆さんの期待に沿えるようお答えします。」と述べ、日ごろ授業などで活用しているタブレット端末を用いての発表に期待が寄せられました。

今月号では、皆さんからいただいたご質問やご提案と、それに対する村の回答をご紹介します。

1 班

ガードレールを設置してほしい

**Q** 通学路などの子どもの多く通る場所で、ガードレールが設置されているところが少なく、低学年

の子たちが車道に飛び出してしまい、交通事故の可能性が高まってしまいます。

また、ガードレールがあれば、高齢者なども安心して歩行ができます。交通事故防止のため、歩行者が安心して村内を歩けるよう、坂になっている中学校の裏やカーブ、通学路を中心にガードレールの設置をお願いします。

**A** 1班の皆さんにご要望をいただいた中学校の裏の道路は、ガードレールを設置することで、歩道が狭くなってしまう、歩行者のすれ違いに支障となってしまうため、この場所への設置は難しいと考え

ます。

ガードレールが設置できない場所には、グリーンベルトや、う回路を整備し、対策をしています。

道路を利用する全ての皆さんが交通ルールを守ることが交通安全の第一歩です。皆さんも、一緒に交通安全に取り組んでいただきたいと思ひます。



2 班

きよかわ給食ランチを開発して道の駅で販売してみるのはどうでしょうか

Q

清川村の給食センターで作られた給食は、お肉や野菜がいっぱい入っていて、栄養満点でとてもおいしいです。テレビでも特集されたこともありまして。その中でも例えば、サバの味噌煮や肉じゃが、カレーなどの昔から親しまれている給食をお弁当にしてみるのはどうでしょうか。道の駅で販売される食事の中に、給食ランチを加えることで、もっとたくさんの方に清川村の魅力を知ってもらえると思います。

A

給食センターで調理された給食を直接道の駅「清川」で、「きよかわ給食ランチ」として販売する提案は、衛生面や制度上の問題から困難ですが、皆さんの提案を道の駅「清川」の駅長さんに相談したとこ

ろ、学校給食のレシピを提供していただければ、販売できるか検討してみたいとのことでした。

すぐにメニューにするのは難しいかもしれませんが、まずは試験的に期間限定またはイベント時などで数量を限定した販売や、その状況を確認した上で新たなメニューとして道の駅「清川」での販売を検討していただきたいと考えています。



3 班

家庭用ごみ袋を指定の袋にしてほしい

A

他の市や町の状況を見ると「もえるごみ」の収集を有料にしたことで、ごみの減量化・資源化が進んでいます。ご提案いただいた内容は、村のごみの減量化・資源化を促進していく上で、大変有効な手段であると考えますので、今後検討していきます。

Q

ごみ袋を指定にすることで、家庭から出るごみの量を減らすことができると思います。しかし、すべての袋を購入することになると家庭への負担が大きくなってしまおうと思うので、月に1回家庭の人数によってごみ袋を村から配布し、それを超える分のごみ袋を購入してもらうようにするなどの工夫もできると思います。



しかし、有料にすることは、ご家庭の経済的な負担になるため、不法投棄やポイ捨てが増加する恐れがあること、指定袋以外のごみがステーションに放置されることや、もえるごみが資源ごみに混入することなどデメリットも考えられます。なお、皆さんが限りある資源を大切にし、一人ひとりがごみの出し方を気にするだけで、ごみの資源化・減量化に大きな効果がありますので、皆さんできるところから始めてみましょう。



4班

森林を利用したアスレチックと  
ジップラインを設置してほしい

**Q** 村の主な観光場所は「宮ヶ瀬ダム」が有名ですが、訪れる人の年齢は比較的高く、親子連れや幼児が楽しめる場所は運動公園などに限られるため、たくさんの方が遊べる場所とは言えません。そのため、清川村の良さである自然を利用して、木を利用した森林アスレチックを設置することで親子連れの方でも清川村に遊びに来やすくなると思います。



**A** 子どもも高齢者も誰もが安全に、自由にもが安全に、自由に楽しく遊びたくなるような施設の整備は、都市計画法の指定がない清川村では、土地の確保が難しいと考えられますが、土地が確保できれば、誰でも安全に遊べる施設を考えていきたいと思えます。



5班

給食費の補助を次年度以降も  
続けてほしい

**Q** コロナの影響で、お給料が減ってしまったり、仕事ができなくなりました。浮いたお金は、子どもたちが勉強するのに必要な文房具などを買うことができるので来年度以降も給食費の補助を続けてほしいと思えます。



**A** このまま給食費の全額補助を継続するには、これまで村が負担している給食センター運営費や給食費を加えた、合計3400万円の財源を継続して確保する必要があります。



これは、今後において村の大きな財政負担を意味しますので、給食費の全額を補助するという判断は、慎重に行う必要があります。現在の新型コロナウイルス感染症の拡大状況や社会情勢を踏まえ、また、5班の皆さんの調べた内容も参考に、さまざまな観点から、検討したいと思えます。

皆さん(敬称略)

前半

議長…川口 冬真  
書記…清水 右京

1班

櫻井 徳太郎  
須永 悠太  
二瓶 莉彩  
平川 郁佳  
渡邊 美知琉

2班

岩澤 奈都乃  
河原 清春  
松本 杏  
藤田 紗矢

3班

大嶋 千裕  
奥 和奏  
羽切 翼  
橋本 晃乃介

**Q** 村長さんは「街灯をLEDライトに530個変えています。」とおっしゃっていました。しかし、調べたところ、半分以上がLEDライトではありません。もっと街灯を増やして、省エネで環境にやさしいLEDライトに変えてほしいです。



6 班  
街灯をLEDライトに変え、安全な村にしてほしい

**A** 現在、村内の防犯灯を全てLED化にする工事を令和2年度から5年度までの4年計画で行うこととして、これまで260箇所、約半分のLED化への取り換え工事が完了しています。まだLEDではない防犯灯は、まだ交換工事が終わっていない地域の防犯灯だと思います。防犯灯をたくさん設置して道路を明るくすれば、交通事故や犯罪が減ることも考えられますが、「光が部屋に入ってきてまぶしい」、「夜間に農作物の成長に支障があるのでは設置しないでほしい」という意見もありますので、警察庁が定めた基準に沿って設置しています。

## 講評

緑小学校

校長 船津 慎一先生

清川村教育委員会

教育長 山田 一夫

どの班からも、村のために何が必要なのかを自分のこととして考え、調査と事実に基づいた提案が行われました。このような話し合いはなかなかできることではありません。

中学校でもさまざまな教科を勉強することになりますが、根拠をもって学習すると新たな発見があるかもしれません。今回の経験を生かして、頑張っていたきたいと思います。

タブレット端末を自在に効果的に活用して質問していただき、今後デジタル化が進んでいく中で、情報通信技術を使いこなす姿を見て頼もしく思いました。

皆さんの貴重なご意見やご提案は、今後の村づくりの参考にさせていただきます。村民の皆さんが清川村に住んで良かったと思っただけのように、一生懸命取り組んでまいります。



子ども議員の

## 後半

議長..奥 和奏  
書記..橋本晃之介

### 4班

大矢 磨広  
川口 冬真  
梶原 彰人  
澤田 あのん

### 5班

城田 陽愛  
加藤 千暖  
谷 夢羽  
加藤 楊志  
中川原 優

### 6班

嶋田 汐  
本間 翔大  
清水 右京  
畑根 ゆり  
山田 百恵